

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成 2 6 年度病害虫防除情報第 1 2 号

いちごの病害虫対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

本害虫については、昨年より防除の徹底を呼びかけてきましたが（平成 26 年 12 月 3 日付け病害虫防除情報第 1 2 号、平成 26 年 12 月 24 日付け病害虫発生予察注意報第 4 号）、引き続き高い発生程度で推移しています。今後、気温が高くなるにつれ、さらに発生増加が予想されますので、引き続き防除を徹底しましょう。

1 作物名 冬春いちご

2 病害虫名 ハダニ類

3 発生状況（経過）

2 月中旬における巡回調査の結果は、次の通りであった。

発生面積率：84.7%（前年84.7%、平年65.8%） 平年よりやや多

寄生株率：44.0%（前年31.2%、平年17.8%） 平年より多

葉当たり虫数：13.8頭（前年15.8頭、平年4.7頭） 平年より多

寄生株率は過去10年の同時期で一番高い数値、発生面積率および葉当たり虫数は2番目に高い数値となっている（図4）。

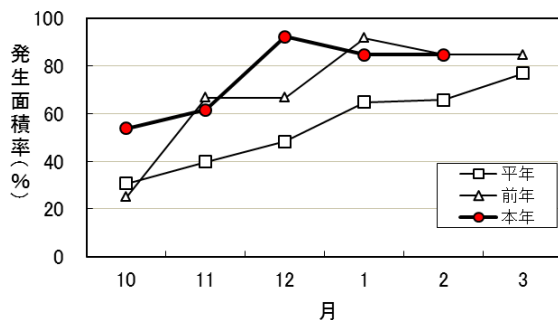


図 1 ハダニ類発生面積の推移

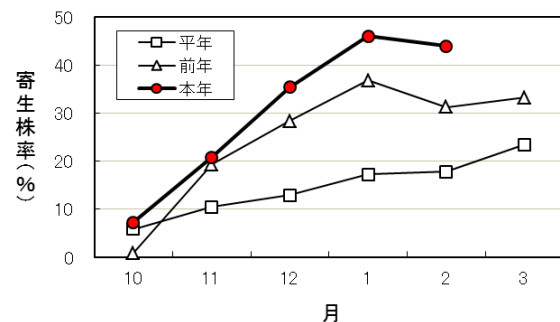


図 2 ハダニ類寄生株率の推移

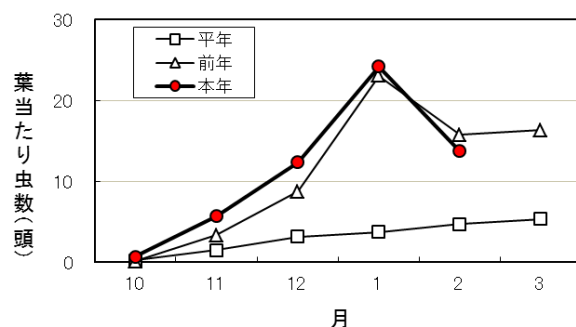


図 3 ハダニ類葉当たり虫数の推移

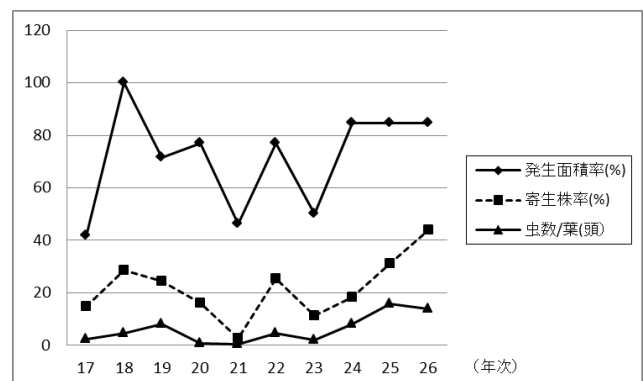


図 4 2 月調査における年次別発生推移

4 防除上の注意

- 1) 発生初期は部分的に発生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、スポット散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れが無いように防除を行う。
- 2) 今後、気温が高くなるにつれて、個体数の増加が早くなるため、発生を認めたら直ちに防除を行い、発生が多くなったら5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) ハダニ類の密度が高くなると、葉がハダニの吐く糸で覆われ薬液がはじかれ、ハダニ類に対する薬液の付着が悪くなるので、展着剤もしくは粘着性の高い気門封鎖型薬剤を使用する。
- 4) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した茎葉に寄生していたハダニ類は、短時間で離脱し、生育中の作物に移動するので、できるだけすみやかにほ場外へ持ち出し処分する。
- 5) ハダニ類をはじめとする害虫の寄主植物となる雑草を除去する。その際は、通路やサイド際の除草もしっかり行い、除草した雑草はハウス内に放置せずすみやかに処分する。
- 6) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 7) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
- 8) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

(その他)

- 1) 農薬散布に当たっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- 2) ただし、農薬の安全性評価について、今年から短期暴露評価が導入されることになり、既登録農薬の中には、今後使用方法の変更や適用作物の削除などの見直しが行われる場合があります。ラベルにある使用基準を守って使用しても、農薬残留基準値を超過してしまう可能性があるため、農薬使用の際には、各農薬メーカーのパフレットやホームページ等で最新の登録内容を確認し、使用してください。
- 3) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 久野
TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp